

事務 事業名	コード1	42200	大原幽学記念館活動費	課	生涯学習課					
	コード2		管理費を含む	所属班	文化振興班					
			☐ 主要事業	電話番号	68-4933	内線				
施策 体系	基本方針	4	心豊かな人と文化をはぐくむまちづくり	予算科目	会計			款	項	目
	施策	7	芸術文化の振興・伝統文化の保存	根拠 法令	一般会計			10	4	11
	施策の展開	3	地域固有の歴史・文化財等の保存継承		文化財保護法、博物館法、大原幽学記念館の設置及び管理に関する条例					
	基本事業	254	大原幽学関係資料の保護・保存							

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 7 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	大原幽学及び郷土の歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・展示を行うことで地域文化の向上に寄与するため、古文書調査の実施、収蔵庫内の管理、企画展示や講座の開催を行う。【活動経費】臨時職員2名(館長・用務員)の賃金、講師や研究員の謝礼、印刷物の作成費などがある。【維持管理業務】記念館は敷地面積1,531.5㎡、延べ面積1,134.28㎡の鉄筋コンクリート地上2階建の施設で、展示室、収蔵庫、学習室などからなっている。国指定重要文化財の大原幽学関係資料を中心とする郷土の歴史・民俗資料の保存・管理や来館者の対応のため、設備の保守・整備を行う。保守点検(浄化槽・受電設備・消防設備・エレベーター)、館内清掃、くんじょう作業を含む館内環境調査、ネズミ防除を業者に委託している。 【業務の流れ】 【運営業務】 契約、支払いの事務処理、来館者の受付、展示解説、資料の受け入れ、古文書調査の実施、常設展示の入替え、企画展示、各種講座の開催を行う。 【維持管理業務】 施設維持管理業務の検討 ⇒ 業者打合せ ⇒ 資料作成 ⇒ 契約準備 ⇒ 契約事務 ⇒ 業務内容確認・立会い ⇒ 支払い・報告

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.賃金	2,690 記念館長、用務員賃金
2.報償費	906 講師謝礼、研究員報償費
3.需用費	5,141 光熱水費、修繕料、消耗品、印刷費、図書購入、ガソリン代
4.委託料	2,072 保守(浄化槽・受電・消防・エレベーター)、消毒、ネズミ防除、清掃
5.その他	3,075 旅費、役務費、使用料賃借料、備品、幽学150年祭補助金
【前年度比増減理由】記念事業実施のため 【歳入】入館料:513千円、寄附金701千円	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
【運営業務】契約庶務事務348時間 来館者対応528時間 展示・講座564時間	
資料調査・管理624時間	
【維持管理業務】資料作成576時間 契約庶務事務288時間 伝票作成決裁120時間	

事業費	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
1.賃金	千円	2,686	2,686	2,690	2,691
2.報償費	千円	571	824	906	930
3.需用費	千円	5,293	8,094	5,141	5,086
4.委託料	千円	2,093	2,062	2,072	2,119
5.その他	千円	1,506	1,461	3,075	1,665
事業費計(A)	千円	12,149	15,127	13,884	12,491
うち一般財源	千円	11,524	14,501	12,157	11,865
人件費	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
正規職員従事人数	人	1.51	1.51	1.51	1.51
延べ業務時間	時間	3,048	3,048	3,048	3,048
人件費計(B)	千円	11,582	11,582	11,582	11,582
トータルコスト(A)+(B)	千円	23,731	26,709	25,466	24,073

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 大原幽学先生没後150年祭 企画展「幽学の手蹟」 文化財調査事業 古文書講座・茶道教室・体験講座 26年度計画(26年度に計画している主な活動) 企画展「成田・芝山の門人たち」 文化財調査事業 古文書講座・茶道教室・体験講座	ア 開館日数	日	299	302	302	303
		イ 講座・企画展開催回数(延べ)	回	65	83	87	84
		ウ					
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・市民、観光客	ア 人口(4月1日現在)	人	69,749	69,223	68,725	68,241
		イ 観光客数	千人	909	1,277	1,310	-
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・記念館へ来館することにより、郷土の偉人である大原幽学の活動や業績を知ることができる。 ・地域の歴史や文化財に対する理解が深まる。	ア 施設利用者数	人	5,482	5,718	4,663	5,000
		イ 講座受講者延べ人数 (学習機会をもった利用者がどれくらいいるか)	人	597	679	775	700
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・地域の歴史的資料が守られ、調査、公開、活用されることで、豊かな地域文化への興味、理解が深まる。	ア 施設利用者数のうち市内在住者数 (地域文化へ関心が深まりがどれくらいか)	人	177	210	180	220
		イ 文書館、飯岡歴史民俗資料館及び大原幽学記念館の施設利用者数	人	5,545	5,890	4,786	5,123

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
大原幽学関係資料が国指定重要文化財となり、専門職員をおいた保存公開施設が必要となったため、平成8年3月に記念館が開館し、博物館施設としての業務が行われるようになった。	・新しく発見された古文書などがあり、国指定重要文化財の追加指定を目指して、継続して調査、研究を行っている。・記念館が立地する遺跡史跡公園内にあったキャンプ場が平成21年度で廃止。農水産課が同公園で実施する交流事業は平成19年度から開始したが、事業数・参加者数が減っている。	・施設利用者の方から「障害者や高齢者の利用料免除がなく不満」、「せっかく良い展示があるのにPRが足りない。地域の子どもたちにもっと利用してもらってはどうか。」との意見がある。

事務事業名	大原幽学記念館活動費 管理費を含む	課名	生涯学習課	班名	文化振興班
-------	----------------------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 大原幽学に関する歴史資料の整理・保存を担う専門的な施設は他になく、地域の歴史・文化の振興、継承につながる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象については、市民だけでなく誰でも利用できる施設となっており、適切である。また、意図についても、大原幽学の活動や業績に併せて、地域の歴史や文化財の展示も行っており、適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 国指定文化財の取り扱いについては、国からの指導があり、専門的な保存業務が必要であるため、市で管理することは妥当である。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 来館者の増加を目指したい。(他団体の同種施設と比較して来館者が少ない) 【H25参考データ】施設/入館者数/開館日数 ○伊能忠敬記念館/69,889人/321日 ○山武市歴史民俗資料館/9,145人/295日 ○芝山はにわ博物館/9,689人/306日
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 平成25年度からJAFと提携してPRに努めているが、更なる来館者の増加へつながるようなPR活動や関連イベントや事業との連携が必要である。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(文書館、飯岡歴史民俗資料館、市内に点在している文化財発掘物) (2) ☒ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市内には、文化財や資料を所蔵している施設が点在しており、統廃合によって考古、民俗、歴史など分野ごとに適切な管理、活用ができる。但し、収蔵スペースを確保する必要がある。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 活動費については、博物館施設として最小限の活動のみ行っている。講座も市民がボランティアで運営・実施しているものもある。維持管理費については、大部分を占める電気料の削減ができないか、維持費のかからない省エネルギーの仕様を考えたい。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 業務量そのものは多くはないが、所属課、本庁舎などへの決裁等でひとつの事務処理に時間がかかる。土日勤務があるため事務処理が遅延しがちであり、スムーズな報告・連絡・相談が難しい。また、専門性が求められる職務であり、専門性を持った再雇用職員等が確保できない限り、削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 入館料(一般300円)が設定されており、土・日・祝日にも開館している。講座等では、講座受講者に対し必要な経費の負担を設定している。施設入所の身障者に対する入館料の免除規定はあるが、一般の身障者等に対する規定がなく、近隣他館の状況を踏まえると適正に欠ける。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	大原幽学は二宮尊徳と並ぶ農村指導者であり、展示施設及び資料も充実しているが、来館者の増加に結びついていない現状。多くの人にその成果を見てもらうために何をすべきか、車で来館しやすいような施設づくりや、魅力ある施設づくり、PR方法を考えていきたい。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																							
☐ 目的再設定 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:文書館、飯岡歴史民俗資料館、市内に点在する文化財発掘物) ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 受益機会の適正化 ☒ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止			<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
			コスト																							
		削減	維持	増加																						
成果	向上	○																								
	維持																									
	低下																									
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか?																										
いつまでに	なにを、どうするのか?																									
①平成26・27年度中、②平成29年度、③平成27年度から段階的に④平成26年10月	①市内小中学校へのPR、周辺施設へのパンフレット配付、他課の事業との連携、進入路のわかりやすさ向上と整備の検討 ②文書館、飯岡歴史民俗資料館、市内に点在する文化財発掘物との統廃合・連携 ③電気量の削減 ④身障者等に対する入館料の免除の検討																									
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																										
①幽学まんがの配布、9月企画展ポスター配付と同時に実施、道の駅からの情報発信による相乗効果、公園管理費にて史跡遺跡公園整備の策定委員会の中で進入路の整備を検討する。②収蔵スペースの確保が難しい。 ③LED電球の有効性について、試験導入による効果検証を行う。④なし																										